

2021年3月20日  
四旬節第5主日  
菊地功大司教 メッセージ

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くのみを結ぶ」

四旬節も終わりに近づき、聖週間から御復活のお祝いが視野に入る時期となりました。感染症の状況は継続していますが、十分な感染対策をした上で、復活祭を迎える最終準備を進めたいと思います。

イエスは、間もなく訪れるご自分の受難と死を念頭に置きながら、ご自分の死が多くの人の救いのために必要なのだということを、弟子たちに語ります。

この言葉は、わたしたちに、キリストの弟子としてどのような生き方を選択すべきなのかを、明確に示しています。自分の周りに壁を打ち立て、隣人の必要を顧みずに自分を守ろうとすると、その種は、実を結ぶことなく朽ちていくことでしょう。

エレミヤは、「わたしの律法を彼らの胸に授け、彼らの心にそれを記す」と述べて、新しい契約について預言します。イエスの受難と死を通じて結ばれる新しい契約は、まさしく、自らを捨て、他者のために生きようとする心の姿勢を求めるものであり、それは知識によるのではなく、掟の強制によるのではなく、心に刻まれた神の思いに基づくことなのだと教えます。わたしたちは、イエスが弟子たちに語ったその思いを、心に刻みたいと思います。

パウロはヘブライ人への手紙で、キリストの従順について語ります。苦しみを避けるのではなく、その中に身を置きながら、神の導きに完全な信頼を寄せることによって、キリストは完全な者となり、従う者に対して永遠の救いの源となったと記します。

他者のために徹底的に自分の人生を献げ、困難に取り囲まれる中でも、神の意志に従順であった人物として、聖家族の長である聖ヨセフがあげられます。ちょうどこの3月19日は聖ヨセフの祝日でしたし、また教皇フランシスコは、福者ピオ九世が1870年12月8日に、聖ヨセフを「普遍教会の保護者」として宣言されてから150年となることを記念して、今年の12月8日までを「ヨセフ年」と定められています。

使徒的書簡「父の心で」において、教皇は、「目立たない人、普通で、物静かで、地味な姿の人」である聖ヨセフの内に、「困難なときの執り成し手、支え手、導き手を見いだすはずです」と指摘されます。

その上で教皇は、「ヨセフの喜びは、自己犠牲の論理にではなく、自分贈与の論理にあ

るのです。この人<sup>ひと</sup>には、わだかまりは**いっさいなく**、**信頼**<sup>しんらい</sup>だけがあります。その**徹底**<sup>てつてい</sup>した口数<sup>くちかず</sup>の少<sup>すく</sup>なさ<sup>くわく</sup>は、**不満**<sup>ふまん</sup>ではなく、**信頼**<sup>しんらい</sup>を**表す**<sup>あらわ</sup>具体的な**姿勢**<sup>しせい</sup>です。・・・(主<sup>しゅ</sup>は)、**自分**<sup>じぶん</sup>の**空白**<sup>くわうばく</sup>を埋めるために**他者**<sup>たしや</sup>の**所有物**<sup>しやうぶつ</sup>を利用しようとする者<sup>もの</sup>を拒<sup>けん</sup>み、**権威**<sup>けんい</sup>と**横暴**<sup>おうぼう</sup>を、**奉仕**<sup>ほうし</sup>と**隷属**<sup>れいぞく</sup>を、**対峙**<sup>たいじ</sup>と**抑圧**<sup>よくあつ</sup>を、**慈善**<sup>じぜん</sup>と**過保護主義**<sup>かほごしゆぎ</sup>を、**力**<sup>ちから</sup>と**破壊**<sup>はかい</sup>を混同<sup>こんどう</sup>する者<sup>もの</sup>を拒<sup>けん</sup>みます。**真**<sup>ま</sup>の**召命**<sup>しょうめい</sup>はどれも、単<sup>たん</sup>なる**犠牲**<sup>ぎせい</sup>ではなく、その**成熟**<sup>せいじゆく</sup>である**自己贈与**<sup>じこぞうよ</sup>から生まれます」と述べています。

許<sup>いいなづけ</sup>嫁<sup>よめ</sup>であった**マリア**に**起こった**<sup>おこつた</sup>**出来事**<sup>できごと</sup>とそれに**続く**<sup>つづ</sup>**神**<sup>かみ</sup>からの**呼びかけ**<sup>よびかけ</sup>に対する、**聖**<sup>せい</sup>**ヨセフ**の**姿勢**<sup>しせい</sup>は、**信仰**<sup>しんこう</sup>とは**教条的**<sup>きやうじょうてき</sup>でもなければ、かといって**自分勝手**<sup>じぶんかつて</sup>なものでもないことを**教えて**<sup>おし</sup>ています。**信仰**<sup>しんこう</sup>の本質<sup>ほんしつ</sup>は**自分**<sup>じぶん</sup>では**コントロール**<sup>コントロール</sup>できないところにあること、そしてそれを**受け入れる**<sup>うけいれる</sup>ところにあることを、**聖**<sup>せい</sup>**ヨセフ**の**生き方**<sup>いきかた</sup>が**教えて**<sup>おし</sup>ています。

**聖**<sup>せい</sup>**ヨセフ**の**模範**<sup>もはん</sup>に**学び**<sup>まな</sup>ながら、**御復活**<sup>ごふっかつ</sup>に向けて、**四旬節**<sup>しじゆんせつ</sup>を**締めくく**<sup>む</sup>ってまいりましょう。